

目的 歩行中に発生する静電気によるスカートの帯電に関して、被服を構成する立場から考慮すべき資料を得るために、次の事項について測定し観察した。

1. スカートの種類による帯電の差異の傾向
2. 裏地をつけることの効果
3. 裏地のつけ方の違いによる影響の有無
4. 制電布を用いた場合の帯電状態

方法 回転セクター方式の静電気測定装置を用いて、歩行中のスカートに発生する裾附近の静電気量を電圧値で測定し、帯電の大・小を比較する方法を考えた。

ポリエステル布で、裾回り寸法だけが異なる9種類のスカート、ひとえ仕立てのもの、裏地をつけたもの、裏地のつけ方が異なるもの、制電布を使用したもの、などを製作して着用し、一定の歩幅と速度で歩行中に生ずる帯電を、上記の方法で測定して、その大・小を比較するとともに、写真撮影もして観察した。

結果 スカートの裾附近の帯電は、側面と前面に大きく、後面はやや小さい。

スカートの種類では、セミタイトスカートや前ひだスカートの方が大きくなりやすく、次で、後ひだスカートであり、裾幅が広いセミフレヤースカートや、裾幅は狭くても裾にスリットがあるものは、比較的、帯電が小さい傾向であった。

裏地としてキュプラをつけることは非常に効果的であり、ひだスカートにポリエステルの裏地をつける場合には、表布と裏地とを重ね合わせていっしょにひだを折りたたむ方法が好ましかった。

制電布を用いて製作したスカートの帯電は僅少であった。